

## はじめに

平成5年度から始まった文部省重点領域研究「総合的地域研究の手法確立—世界と地域の共存のパラダイムを求めて」（略称：総合的地域研究）は、今年度をもっていよいよ4年間の研究活動を閉じることになりました。この4年間、総括班と6班の計画研究班を中心に延べ25班にのぼる公募研究班の協力のもと、シンポジウム、研究集会等を開催しながら、さまざまな視点から地域研究についての課題が検討されてきました。研究対象地域としては東南アジアに中心をおきつつも、他地域との比較や連関のもとにそれぞれの地域の個性を明らかにしようとする斬新な研究が試みられました。この4年間の研究の経過と成果は、この重点領域研究の季刊誌として刊行された『総合的地域研究』（創刊準備号～第16号）および各班の成果をとりまとめた「成果報告書シリーズ」（第36号まで刊行）として公刊されていますが、その他の媒体を通じて、今後もさまざまな形で公表されていくこととなります。

4年間の研究活動を振り返れば、当初の課題にどこまで迫りえたのか、反省しなければならない面も少なくありません。しかし、地域研究に関わる数多くの分野の研究者が一つの地域を対象に共通の意識をもって共同研究を推進できたことは、今後の地域研究の展開にとって一つのエポックたりえたのではないかと自負しているところです。昨年の秋には、こうした共同研究を世に問うために、“Southeast Asia: Global Area Studies for the 21st Century”と題する国際シンポジウムも開催することができました。この記録はすでにプロシーディングとして公刊されていますが、今もこのプロシーディングの寄贈依頼があり、内外における地域研究への関心の高さを感じています。

この重点領域研究の初年度から、毎年、年度末にその年の研究経過を研究代表者にとりまとめていただいて、「活動の記録」を刊行していますが、本号は、その最後の「活動の記録」となります。この刊行をもって、プロジェクトとしての活動を締めくくるわけですが、これまでの研究成果や地域研究への今後の展望については、来年度以降に別途の出版物を通じて世に問うことになろうかと思えます。総括班を中心に、現在、とりまとめのための構想を練っているところです。

4年間の私たちの経験が今後の地域研究の展開にさらに貢献できることを願っております。終わりにあたり、「総合的地域研究」の推進にご尽力・ご協力いただいた全ての皆様にお礼申し上げますとともに、今後とも皆様の一層のご協力をお願いする次第です。

1997年3月

文部省重点領域研究「総合的地域研究」総括班  
領域代表者 坪内良博